



SPI Japan 2025

シフトレフトで 組織を「つなぐ」プロセス変革

テストプロセスの平準化で残業を減らし安定した品質をつくりこむアジャイル

2025/10/23

KDDIアジャイル開発センター株式会社

小坂 淳貴

J.K (コサカ ジュンキ)

二代目三島サテライトオフィス長 / Agile Japan EXPO 代表理事

Agileで日本から世界を楽しく！ 三島から日本を楽しく！

Agileの世界とエンジニアコミュニティにどっぷりハマっている元製造業の人。

ソフトウェア開発でプロセスやコミュニケーションに課題を感じていたところアジャイルに出会い、以降、アジャイルの世界へのめり込む。

開催した研修から200名の有資格者を輩出。現在はAgileとScrumの専門家としての知識や経験を活かしながら組織開発に従事。カンファレンス運営などを通じ、日本にAgileが楽しく広まることを夢見て日々活動中。



Mobius
Certified Mobius Product Practitioner

今月、祭りを企画しました



SPI2024

ソフトウェアプロセス改善カンファレンス2024

Japan

https://www.jaspic.org/events/sj/spi_japan_2024/

昨年のSPI Japan 2024のクロージングキーノート(覚えてるか

2025/10/18(金)

組織に自動テストを書く文化を根付かせる戦略 (2024版) −

招待講演

自動テストはシステム開発のアジリティを高めるために決定的に重要な技術ですが、自動テストを「書く」ことをしてこなかった組織に対して、テストを書く文化を根付かせるのは、一朝一夕では成し遂げられません。本講演では、組織にテストを書く文化を根付かせるための試みとして、まずテストを書く意義について改めてまとめた上で、価値と原則を踏まえた戦略についてお伝えいたします。

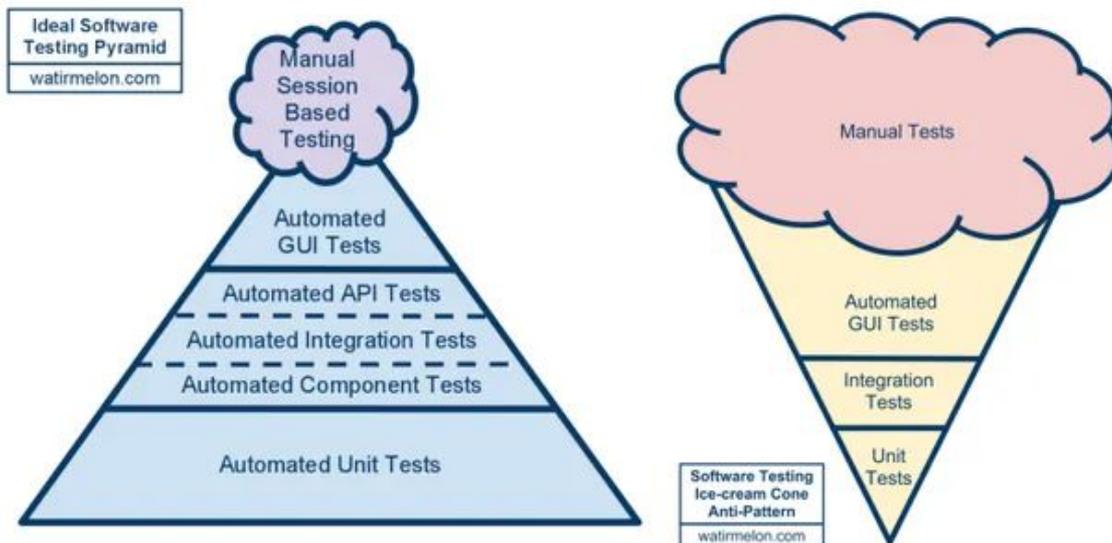


和田 卓人 氏 (プログラマ、テスト駆動開発者) +

https://www.iaspic.org/events/sj/spi_japan_2024/

今日はtwadaさんのお話の実践です

テストピラミッドとアイスクリームコーンアンチパターン



テストで品質は上がらない

咳さん曰く

テストでは品質は上がりませんよ。テストはあくまでも品質をあげるきっかけ。品質をあげるのはプログラミングです。これは大昔からそう。



https://x.com/t_wada/status/1850137486061977802

今日のお話のサマリー

- **テストで品質は上がらない**
 - テストを設計するプロセスはプロダクトの品質を高める
- **プロセスカイゼンには組織のマインドチェンジが重要**
 - 最後の砦マインドでは自らの心身を……
 - 努力や労力だけで品質が良くなるのであればプロは不要
- **今こそシフトレフト**
 - 品質のきっかけとなるテストで組織をつなぐ



SPI Japan 2025

シフトレフトで 組織を「つなぐ」プロセス変革

テストプロセスの平準化で残業を減らし安定した品質をつくりこむアジャイル

2025/10/23

KDDIアジャイル開発センター株式会社

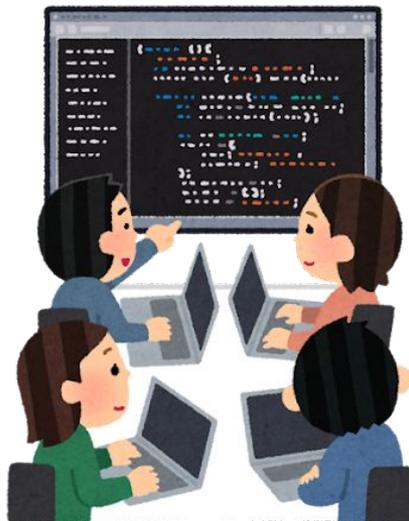
小坂 淳貴

とあるプロジェクト のお話

開発チームと品質チーム



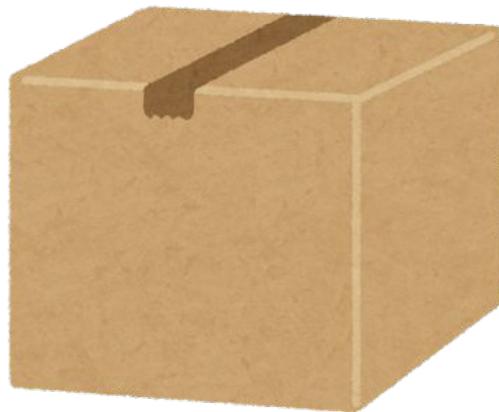
ビジネスチームと開発チームと品質チーム



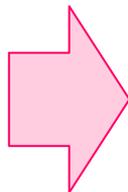
お客様とビジネスチームと開発チームと品質チーム



作ったものを、



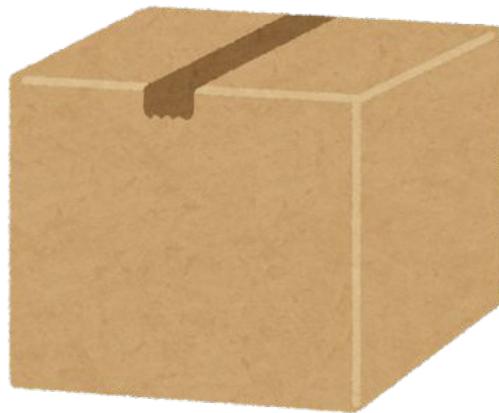
作ったものを、テストして、



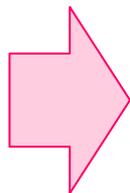
作ったものを、テストして、リリースする



作ったものを、



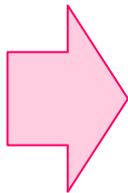
作ったものを、テストして、



作ったものを、テストして、リリースする



どこに問題がある？



つくった人が
テストしていない

※全てができないケースは存在します

バグがあったら



バグがあったら戻ってくる



今終わらせなきゃいけない仕事もある



お客様は待ちくたびれている



ビジネスチームにプレッシャーがかかる



ビジネスチームからプレッシャーがかかる



テストは休む暇がない・・・



そして
月日は経ち

プロダクトの規模が大きくなってきた



テストの総量が大きくなってきた



開発チームでテストをしても



品質はテストチームが担保するっ！！



品質はテストチームが保証する



何が問題？

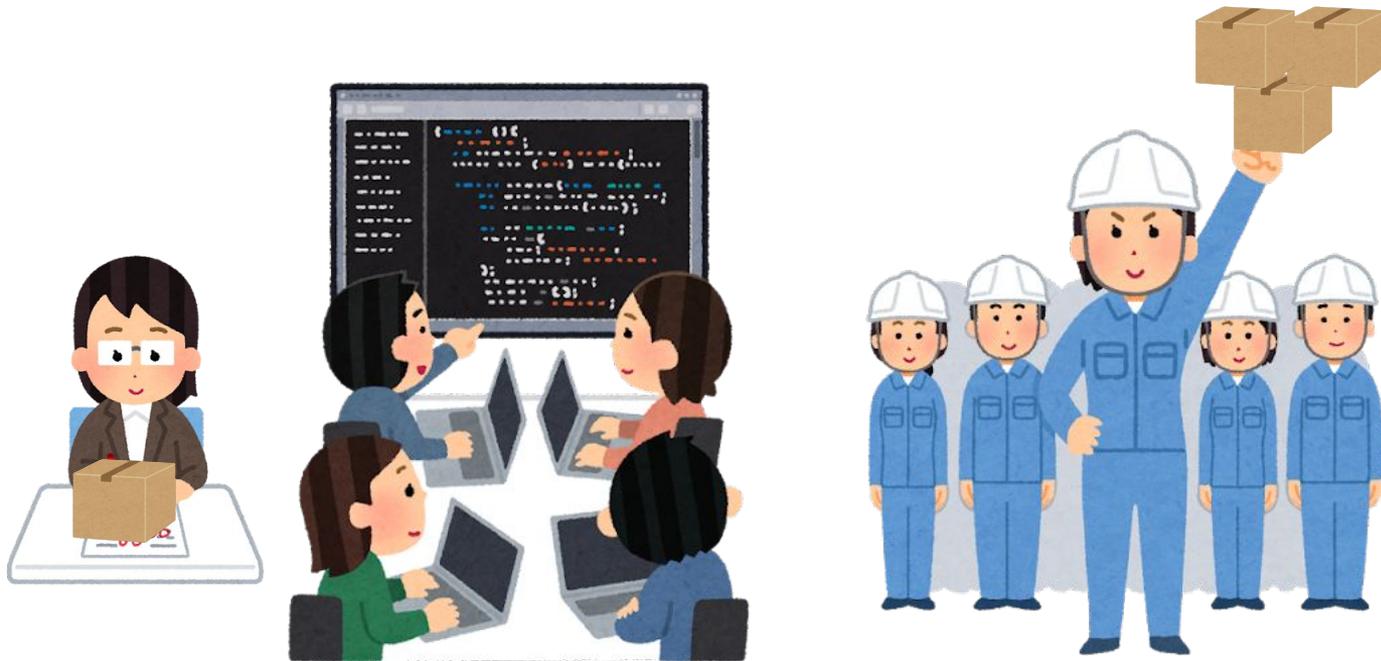
この状況の問題点①

- 一度きりのリリースしか経験のない人たちが複数回のリリースを実践しようとしている



この状況の問題点②

- 開発チームがテストをしている・いないに関わらずテストチームは自分たちだけでテストと責任を遂行しようとしている



この状況の問題点③

- 開発(テスト)が終わる前に次の開発が進められている



シフトレフト？

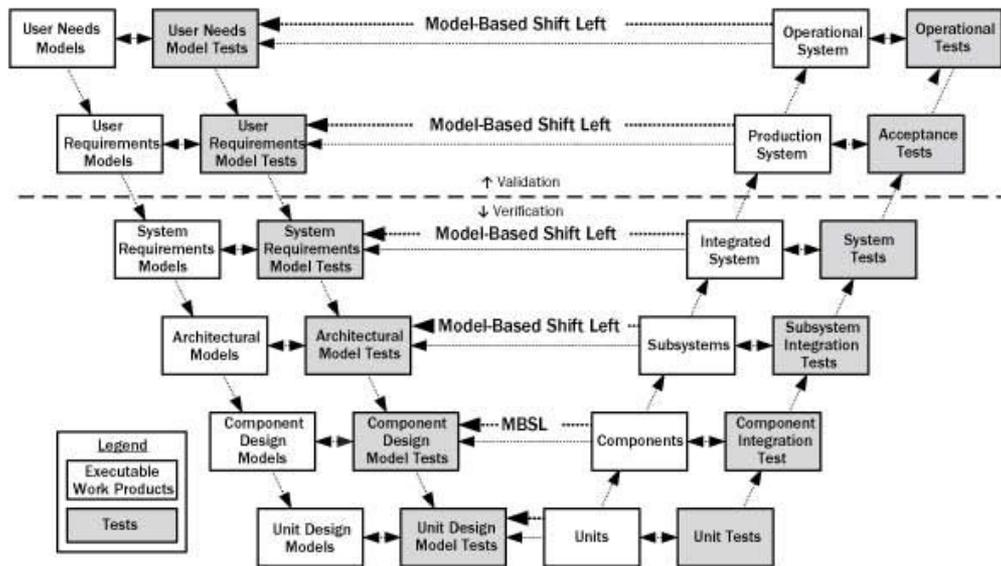
シフトレフトとは？

◆ Google Search ▼

ソフトウェアのテストにおける**シフトレフト (Shift Left) **とは、**開発ライフサイクルの早い段階でテスト活動や品質保証活動を行う**というアプローチまたは考え方のことです。

従来の開発プロセスでは、テストは実装工程の後の下流（右側）で行われることが一般的でしたが、シフトレフトでは、テスト工程を開発の上流（左側）に「シフト（移動）」させ、**企画、要件定義、設計といった初期段階から品質への取り組みやテストを実施**します。

(補足) 画像は様々なものが存在する



https://en.wikipedia.org/wiki/Shift-left_testing

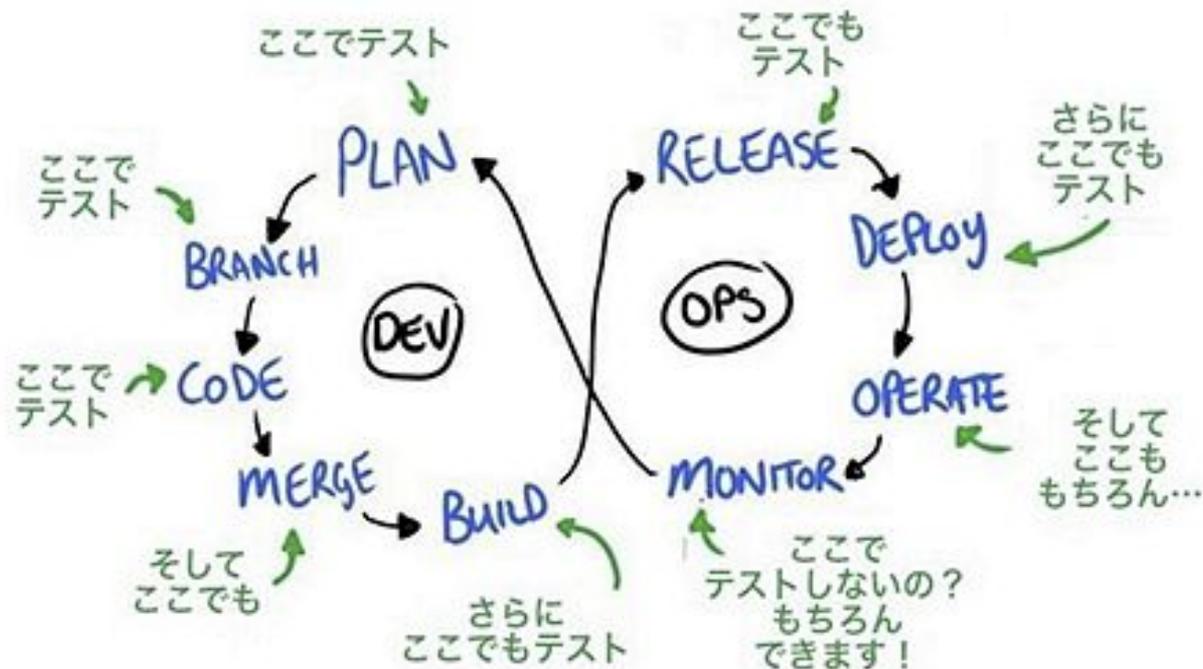
開発(テスト)が終わる前に次の開発が進められていると

- テストチームは着手される開発に関する仕様や要件を確認する時間が確保されず、休暇も取れないような稼働を強いられる



本質的にはこういうお話

継続的テスト

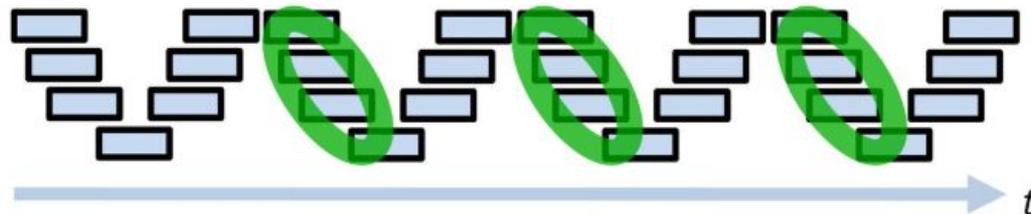


<https://www.publickey1.jp/blog/22/32022.html>

(補足)アジャイル開発における本質的なエッセンスはこちら

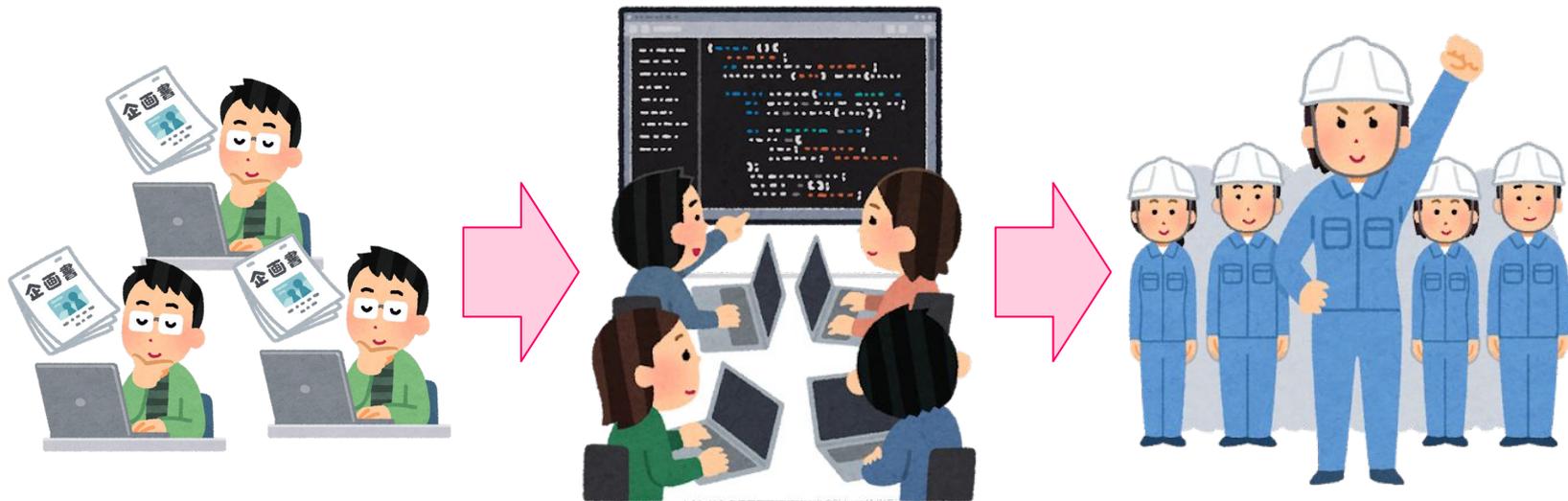
私たちのチーム

- ◆ よい製品になっているかどうかに興味がある
 - ❖ 短い周期でできばえを見たい → 反復ごとの受け入れテスト
 - ❖ 短い周期で製品の仕様や設計をチューニングしたい
 - ❖ ぎりぎりまで製品を磨きたい

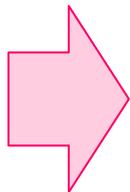


いまこそ！
シフトレフト

組織の仕組みもあります



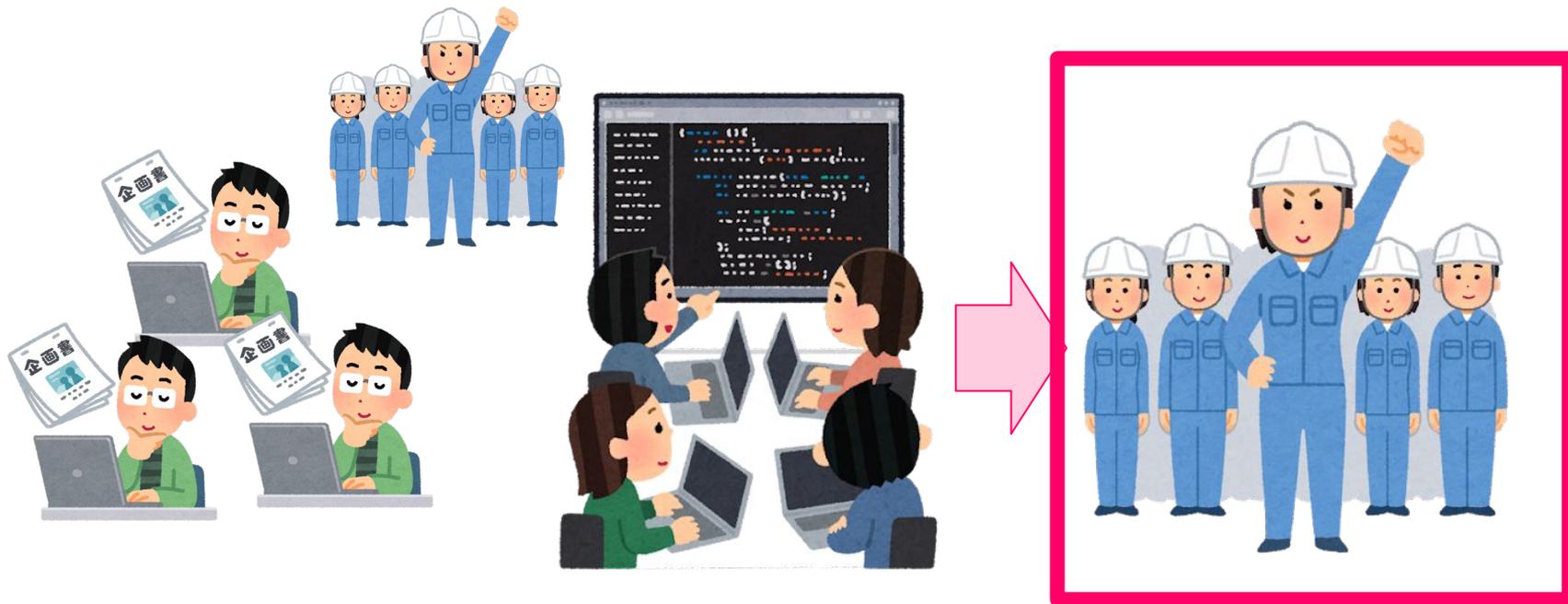
リリースの前にテストが必要な組織の仕組みでも



テストチームが他のチームの活動に入る仕組みはありますか？



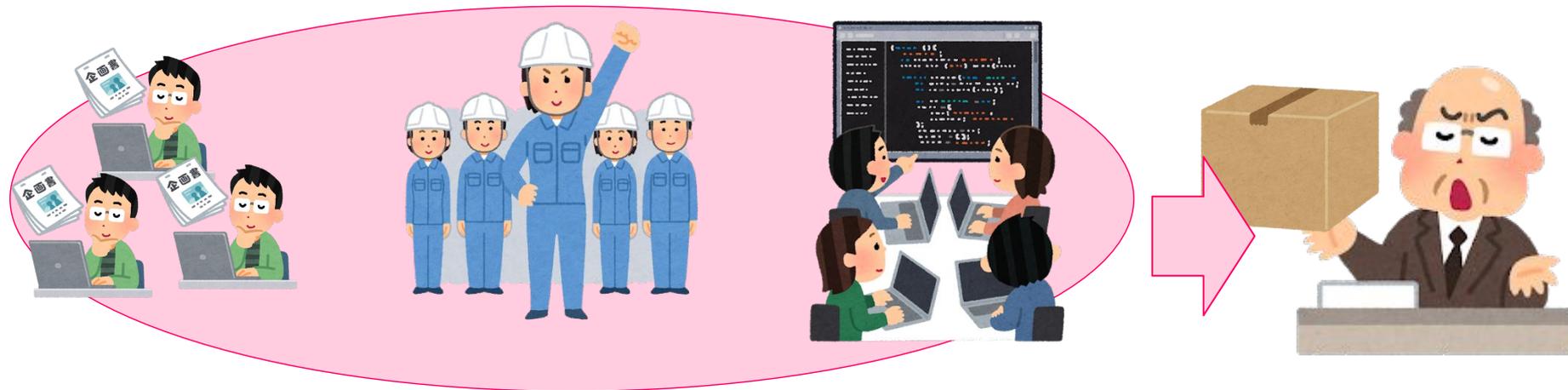
本当はこんな感じとか



本当はこんな感じとか、こんな感じが良いですね



「作ったものを、テストして、リリースする」から



「みんなでお客様が喜ぶものをずっとつくりつづける」へ

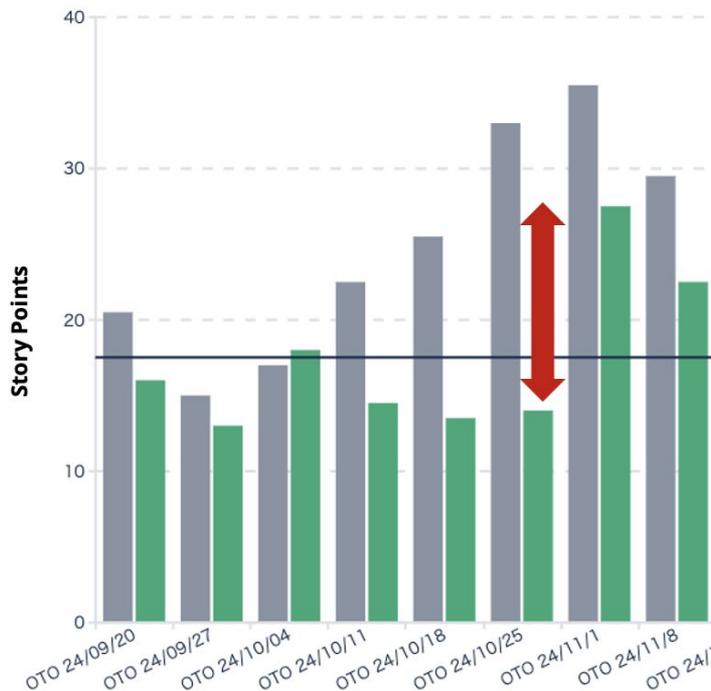


どんな成果が？

仕事の終わらせ方を理解することでベロシティ倍増

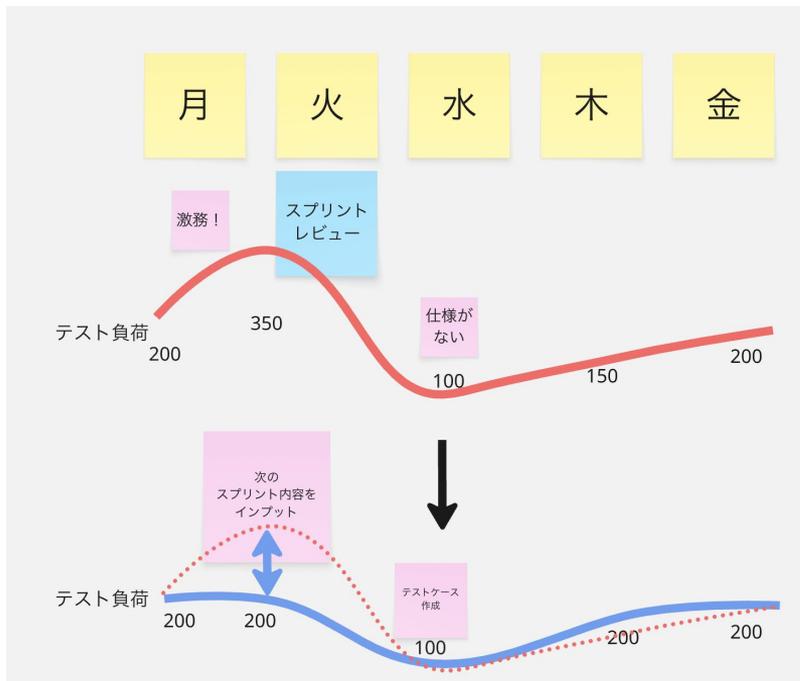
- 早く終わらせるチームは早く加速する

<https://sites.google.com/a/scrumplp.org/published-patterns/retrospective-pattern-language/teams-that-finish-early-accelerate-faster>



仕様の先取り習慣をつけたことで残業時間削減

- 「休暇も取れない・・・」と言っていた人たちが少しずつ負荷の平準化を実現した結果、残業時間も削減



どうやってやるの？

まずはここから(働きかけて実現してくれる人が超重要)



品質をシフトレフトで作り込むには

- 開発を始める前に「何ができたら完成か」を関係者で合意形成する
 - 振る舞いテスト・ユースケーステストなど
- 既存のソースコードに対する影響や全体像に開発前から配慮する
 - 行き当たりばったりのプロダクトはいつの間にか膠着化する
- 開発者一人一人が品質に関する知識を持つ
 - 自分の作成したソースコードが製品となりお客様が使うことに責任を持つ
- 開発したものを機能する状態で結合し続ける
 - 本番へ結合することをチームの当たり前にする
 - 自動化と向き合う

まとめ

今日のお話のサマリー

- **テストで品質は上がらない**
 - テストを設計するプロセスはプロダクトの品質を高める
- **プロセスカイゼンには組織のマインドチェンジが重要**
 - 最後の砦マインドでは自らの心身を……
 - 努力や労力だけで品質が良くなるのであればプロは不要
- **今こそシフトレフト**
 - 品質のきっかけとなるテストで組織をつなぐ



Be a Change Leader.

アジャイルに力を与え

共に成長し続ける社会を創る